

全国の15歳-24歳1633名に公選法改正に関する意識調査アンケートを実施

18歳の若者を 選挙に向かわせるには

有効な主権者教育の一つは、若者と政治家が会う機会を作ること。

特定非営利活動法人ドットジェイビー

謹啓

時下益々ご清栄のこと、お慶び申し上げます。NPO法人ドットジェイビー(理事長:佐藤大吾、本部:東京都千代田区)は、「若年投票率の向上」を目的に、学生へ向けて、議員事務所にて政策立案過程や行政について就業体験を積む「インターンシッププログラム」(議員・首長インターンシップ)を提供しております。この度、ドットジェイビーでは、改正公職選挙法に際しての若者の政治意識を調査するため、全国1633名の若者にアンケート調査を実施いたしました。

その結果をここにお伝えします。更に詳しいデータをお求めの方は、次のお問い合わせ先までご連絡ください。

⇒ 意識調査担当者 田中徳絵 (norie_tanaka@dot-jp.or.jp)

敬具

■調査概要

【対象】15歳～24歳の若者1633名

【期間】2015年6月17日～6月19日

【調査目的】公職選挙法の改正を踏まえ、若者の参政意識及び主権者教育に求められていることを分析する。

【調査方法】WEBアンケート

■調査結果報告

(1)“議員に会う“その生の体験が若者を選挙に掻き立てる。

選挙に関して、「議員と会ったことのある若者」のうち72%が選挙に「行く」、18%が「たぶん行く」と回答。議員と実際に会った若者は、会ったことがない若者に比べ2割以上投票への関心が高くなるという結果が出た。このことから、若者と議員を結びつけることが主権者教育の近道であることが窺える。

(2)“議員に会った若者”は一次情報へアクセスする。

「議員に会ったことのある若者」のうち75%は、政治関連の情報収集に議員の個人ホームページにまでアクセスすることが分かった。これは、「議員に会ったことのない若者」の20%という数字と比べ実に4倍近い差である。

議員と接することで、第三者を通さない一次情報にアクセスする若者を多く生み出すことができ、より関心を拡げることが出来る。ひいては質の高い民主主義の担い手が育つようになることが推察される。

(3)“高校生”が政治と触れるきっかけ作りを！

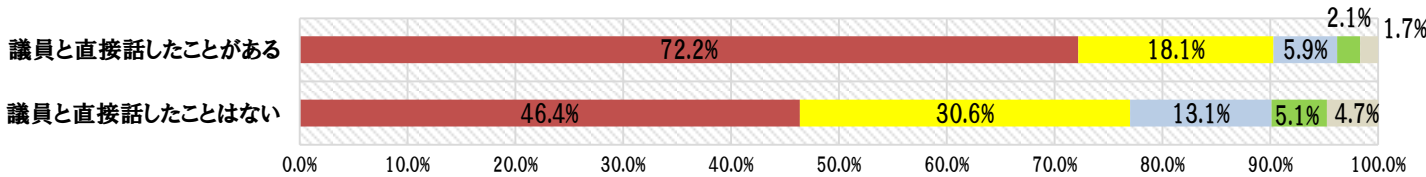
今回の調査の結果、やはり可処分時間の少ない高校生のほうが、新鮮な一次情報に触れる機会が薄く、結果として大学生世代より投票への関心・政治へのイメージなど悪い結果となった。かつては大学進学後2年の猶予を持って主権者教育をし得たが、18歳での選挙権行使が可能となった今、その猶予は存在しない。高校生の間に社会が彼らに主権者教育の機会を早急に提供できるよう努力しなければならない。

■調査結果報告

1. ”議員に会う”その生の体験が若者をうごかす。

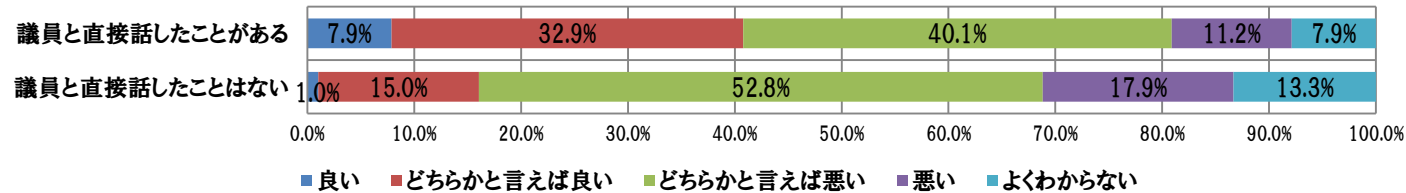
○議員と直接話したことがある若者と話したことのない若者の選挙への関心度の差

(問:あなたは投票に行きますか? -国会・地方議会平均値)



○議員と直接話したことがある若者と話したことのない若者の政治への印象の違い

(問:政治に対するイメージを教えてください)



政治の現場に居る議員と話したことのある若者のうち、**90%以上の若者は「選挙に行く」、もしくは「たぶん行く」と答えており選挙への関与が積極的である。**また、政治に対するイメージについても、「良い」「どちらかと言えば良い」という意見が**40%を占めている**。これは、議員と直接話したことのない若者に比べ実に**2倍近い数字**である。

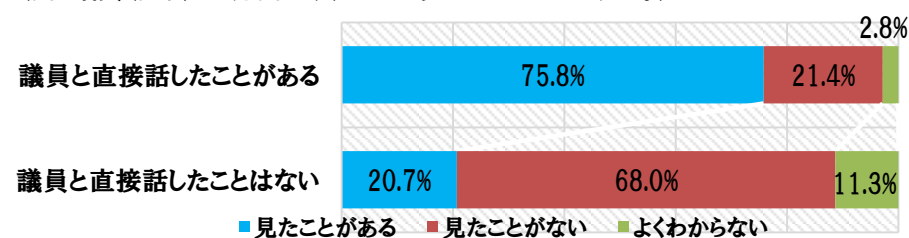
このことから、「生の政治家」と「会う」という体験、**すなわち一次情報との接点が若者を投票に向かわせる大きなきっかけとなることが分かる。**

2. ”議員に会った若者”は、質の良い一次情報へアクセスを試みる

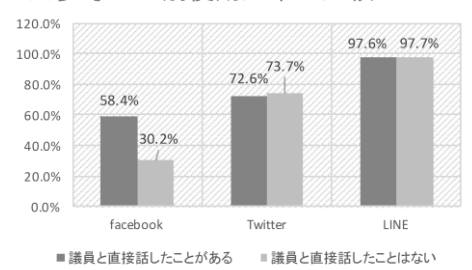
○議員と直接話したことがある若者と話したことのない

若者の議員の個人HPへの閲覧比較

(問:議員(国会・地方問わず)のHPを見たことがありますか。)



※参考: SNS別使用比率の比較



若者が議員自身のホームページを見たことがあるかという調査では、「直接話したことのある者」と「直接話したことのない者」で**全く逆の結果**が出ることとなった。議員自身のホームページは、「会う」という手段を除けば**最も純度の高い一次情報源**である。議員本人と話した若者は、自ら純度の高い情報への接触を試みる。結果として**高い質を持って民主主義へ関与する有権者となっていくのではないだろうか。**

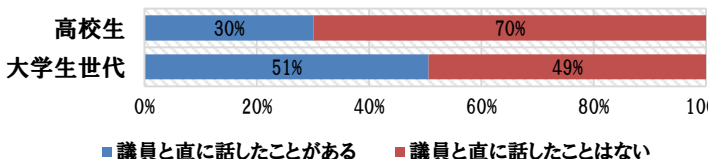
傍論だが、「直接話したことのある者」と「話したことのない者」の間で、実名による情報共有が行われるfacebookの利用率に大きな開きがあったことも、この”一次情報”へ触れようとする意識が見て取れるように思われる。

なお、今回の調査では、国会議員・地方議員問わず多く利用されている”ブログサービス”を日常的に利用している若者は5%に満たず、一方政党公式アカウントが極めて少ないLINEをほとんど全ての若者が利用していることも判明した。質の高い一次情報は若者が自ら取りに行くことも重要だが、その端緒は若者の近くになければならない。議員や政党は情報源を若者の近くに持ってくるという施策を、今以上にスピード感を持って行うことが求められるようになるだろう。

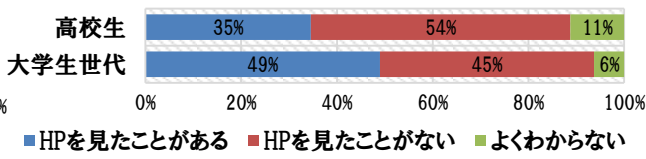
3. “高校生”に政治と触れるきっかけ作りを！

○高校生(15歳～18歳)と大学生世代(19歳～24歳)との一次情報接触度の比較

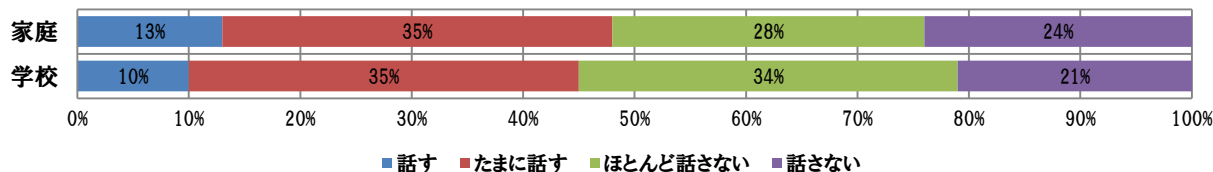
◇議員と直に話したことがある者の比較



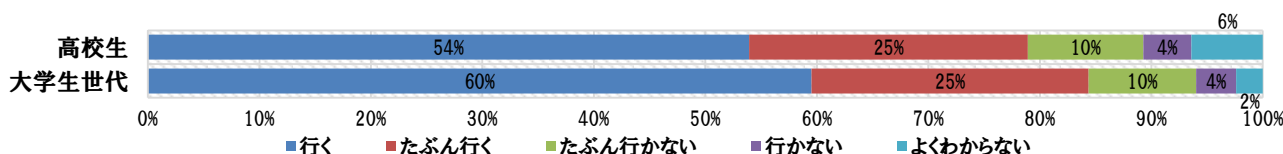
◇議員個人のHPを見たことがある者の比率の比較



○高校生(15歳～18歳)の「高校」及び「家庭」における政治的話題の取扱量について



○若者の投票への関心度



ここまでの調査から一次情報に触れることが投票率向上に重要な“きっかけ”であることが判明したが、一次情報に触れたことのある人数を大学生世代(19歳以上)と高校生(18歳以下)で比較すると、大学生世代では約半分の人間が一次情報に触れているのに、**高校生ではその数がわずか3分の1まで落ちる。**一つの要因として考えられるのは**高校生は“高校”という一つの箱に拘束される時間が長く、可処分時間の少ないという彼らの年代特有の問題が挙げられよう。**

自分の力で一次情報に触れるきっかけを作りにくい高校生へ、それらへ触れるきっかけを作ることができるのは“高校”や“家庭”ということになるだろうが、調査によれば**高校又は家庭で“政治的話題”が会話にのぼることは極めて少ない**ようである。このように高校生は新鮮な一次情報から遠ざけられていたため、高校生の政治不信・社会不信は、大学生に比べ根深い。彼らを、民主主義の表舞台に招待することを決めたのであれば、**“高校生を政治にアクセス”しやすくさせる方策が必要**であり、彼らが一次情報に触れるきっかけづくりを最大限援助することが、彼らを有権者にした社会の責任ではないだろうか。幸い、法改正直後で高校生の投票行動への関心は現実の若年層投票率に比べ高い。**彼らが再び選挙に失望する前に、高校生を新鮮な一次情報に触れられる機会を社会が提供しなければならない**ということが言えるのではないだろうか。

※回答者属性

◇性別



◇年齢



◇回答地



- 質問項目
- 問1 あなたの性別をお答えください。
☐男性 ☐女性
- 問2 あなたの年齢をお答えください。
☐15 ☐16 ☐17 ☐18 ☐19 ☐20 ☐21 ☐22
☐23 ☐24
- 問3 あなたのお住いの地域をお答えください。
☐北海道 ☐東北地方 ☐関東地方 ☐中部地方
☐近畿地方 ☐中国地方 ☐四国地方 ☐九州地方 ☐国外
- 問4 あなたの「政治」に対するイメージを教えてください。
☐良い ☐どちらかと言えば良い ☐どちらかと言えば悪い
☐悪い ☐よくわからない
- 問5 現在の国会で、公職選挙法が改正されました。このことを知っていましたか。
☐知っていた ☐知らなかった ☐よくわからない
- 問6 今回の法改正により、選挙年齢が「20歳以上」から「18歳以上」へと引き下げられる見通しです。あなたはこのことについてどう思いますか。
☐賛成 ☐どちらかと言えば賛成 ☐どちらかと言えば反対
☐反対 ☐よくわからない ☐その他()
- 問7 あなたは国政選挙の投票に行きますか。(投票権があるものと仮定してください)
☐行く ☐たぶん行く ☐行かない ☐わからない
- 問8 あなたは地方自治体の選挙の投票に行きますか。(投票権があるものと仮定してください)
☐行く ☐たぶん行く ☐行かない ☐わからない
- 問9 「問7/8」のいずれかで「たぶん行かない/行かない/わからない」と回答した方に質問です。選挙に行かないまたは行くかわからないのはなぜですか。(複数回答可能)
☐投票に行く暇がないから ☐投票所が近くにないから
☐投票判断に必要な情報を得られないから
☐どの党の議員にも期待していないから
☐どの党も議員もよくわからないから
☐自分が投票しなくても何も変わらないと思うから
☐住民票を移していないから
☐政治は自分に関係がないと思うから
☐どの党も議員も良い政治をしてくれなさそうだから ☐その他()
- 問10 自分が投票するとしたら、議員のどのような点に注目して投票しますか。(複数回答可能)
☐その議員の所属する政党 ☐その議員のやりたい政策
☐その議員の目指す理想像 ☐その議員の経歴
☐その議員の人柄 ☐その議員のポスター・チラシなどの印象
☐その議員と自分との関係性 ☐その他()
- 問11 自分が投票するとしたら、その議員に特に注力して欲しい政策分野はなんですか。(複数回答可能)
☐安全保障 ☐観光 ☐教育 ☐原発 ☐子育て支援 ☐消費税
☐雇用政策 ☐財政対策 ☐地域振興 ☐少子高齢化対策
☐震災復興対策 ☐道路交通整備 ☐福祉・医療 ☐その他()
- 問12 前回の衆議院議員選挙では20代の投票率が32.58%と若年層の投票率が低い傾向にあります(最も高いのは68.28%の60代)。このことについての問題意識についてお答えください。
☐問題だと思う ☐問題意識はあるが仕方のないことだと思う
☐知っているが気にしていない ☐若年投票率が低い事を知らなかった
- 問13 問12で「問題だと思う」と回答した方に質問です。その理由をお答えください。(複数回答可能)
☐高齢者の意見が反映される世の中になるから
☐若者として自分の意見を発信する必要があると思うから
☐投票は国民の義務だから
☐若者が日本の将来を考えないのは危険だと考えるから
☐自分たちの生活に直結することだから ☐その他
- 政治との接点について教えてください。
- 問14 普段テレビでニュース番組を視聴しますか。
☐毎日見る ☐たまに見る ☐ほとんど見ない ☐見ない
- 問15 普段インターネットで政治の情報を見ますか。
☐毎日見る ☐たまに見る ☐ほとんど見ない ☐見ない
- 問16 普段新聞を読みますか。
☐毎日読む ☐たまに読む ☐ほとんど読まない ☐読まない
- 問17 普段学校で友達や先生と政治について話をしますか。
☐する ☐たまにする ☐ほとんどしない ☐全くしない
- 問18 普段自宅で家族と政治について話をしますか。
☐する ☐たまにする ☐ほとんどしない ☐全くしない
- 問19 議員(国会地方問わず)と直接会って話したことはありますか。
☐はい ☐いいえ
- 問20 議員(国会地方問わず)の運営するホームページを見たことがありますか。
☐はい ☐いいえ
- 問21 高校で政治経済(または倫理政経)の授業を履修した、または履修する予定はありますか。
☐履修した ☐履修する予定 ☐履修していない ☐わからない
- 問22 以下の中でよく利用するものがあれば教えてください。(複数回答可)
☐LINE ☐twitter ☐facebook ☐Instagram ☐各種ブログサービス
☐2chなどのインターネット掲示板 ☐掲示板まとめサイト
☐NAVERまとめ
- 問23 その他今回の選挙法改正についてお考えになることを自由にご記入ください。

▼NPO法人ドットジェイビー <http://www.dot-jp.or.jp>

本部 東京都千代田区、理事長 佐藤大吾、1998年創業。全国11支部にエリア展開し、大学生約340人が中心となり「若年投票率の向上」を目的に活動するNPO法人。累計19,024人の参加者数を誇る「インターンシッププログラム(議員・グローバル)」をはじめ、「未来国会」(<http://www.miraiokokkai.com/>)、「未来自治体」(<http://www.miraijichitai.com/>)など若年層を対象とした社会学習プログラムを提供。また、「Yahoo!みんなの政治」(<http://seiji.yahoo.co.jp/>)等への議員・議案情報提供など、活動は多岐に及ぶ。

■本件に関する
お問い合わせ

意識調査企画担当

田中徳絵

(norie_tanaka@dot-jp.or.jp)